

- 越後平野の自然の価値や魅力を活かした地域の活性化、地域づくりに関するご意見や情報を有識者をはじめとする皆様から頂くために、推進協議会の下部組織として自然環境活用部会を設立（令和4年12月）
- 自然環境活用部会は、指標種をはじめ水辺に係る地域資源を活かした自然の価値や魅力といった地域振興・経済活性化を目指し、生態系ネットワークの重要性及び認知度を向上させるための普及啓発、広報、イベント、環境学習などの取組みを検討し、地域の賑わいづくりを推進することを目的とする。

## 【概要】

### ■開催日時

令和5年12月12日（火）10:00～12:10

### ■プログラム

#### 1. 開会

#### 2. 議事

(1) 第3回自然環境活用部会の報告

(2) 地域づくりや利活用に関するご意見を踏まえた方策案

(3) 福島潟エリアにおけるモデルプロジェクト実証実験

(4) 行動計画(2030)の骨子(案)について

(5) その他

#### 3. 閉会

## 【第3回自然環境活用部会の報告】のご意見

- 関係市町村のOECMの対応と齟齬がなく、また、OECMに生態系ネットワークのスポットを組み込むよう調整してもらいたい。
- 新潟県の担当者と調整し、県の生物多様性地域戦略にえちごエコネットの話を組み込むべき。そこに至るまでのロードマップを提示してもらいたい。

## 【地域づくりや利活用に関するご意見を踏まえた方策案】のご意見

- 指標種のネットワークという視点で、他地域の生態系ネットワークとのつながりをイメージすると良い。また、活用という観点でも、ネットワークを使ってどのように取組みを発展させるかのイメージを作り上げると良い。
- 今後、トキの野生復帰を進める上で、佐渡の様に江・畦の管理やJA等との連携拡大が必要。
- 指標種のホットスポットにおいて、地域の情報を整理しながらネットワークの核となる場所を作り、その核を中心に、サテライト的にネットワークが広がっていくと良い。
- 農地・森林と川を中心としたエコネットをどのように結び付けるか、県や市の農地のセクションと積極的に連携し、さらに、農業従事者と調整するネットワークを農地セクションを中心に作る必要がある。
- SNSのハッシュタグについて、「福島潟」と検索して出てきたおすすめハッシュタグから、戦略的にどのようなハッシュタグで広めていくのか考え、複数選ぶと良い。
- なんでもありの施設だと魅力が半減する可能性がある。福島潟の強みを整理し、どのような客にお金を使ってもらおうのか整理した上で進める必要がある。
- えちごエコネットを形成する上で、福島潟の位置付けや目標となる環境づくりの議論がかけられており検討する必要がある。その上で、福島潟の活用や地域の人々の力を得ながらの管理の在り方を考えていく必要がある。
- 生き物、自然を守るのみの理想論では自然環境は守れない。潟の恵みを利用し経済活動が生まれる中で、その生息環境を理解し守ることが大切である。
- えちごエコネットで、福島潟や阿賀野川の恵みを用いた新潟ブランドを作っていけると素晴らしい。潟で生産されるものは、地域色が出るため、地域の将来に向けて非常に重要。
- 潟の食材を新潟のブランディングに生かせれば、その生息環境を維持する取組につながる。

## 【その他】のご意見

- 自然環境活用部会を中心に、他の生態系ネットワークと交流の場を設定できると良い。



自然環境活用部会の様子